



地域医療の現場から

看護師不足の病院で約半年、 派遣看護師として働いて

小国公立病院

看護師 赤池 奈緒美



(右から二人目が筆者)



病院の概要

- 設立年月：昭和 28 年 4 月
- 職員数：75 人
(再掲) 医師 9 人、看護師 45 人
(平成 27 年 1 月 7 日現在)

Q. 小国公立病院に派遣された経緯は？

看護師になって今年で6年目で、ずっと地元の球磨郡公立多良木病院で働いていました。

去年の夏ごろに、「小国公立病院や上天草総合病院で看護師が不足しているので、派遣で働いてみないか」と看護師全員に話がありました。期間などは決まっておらず、「希望者は看護部長に申し出るように」と言われていました。多良木病院では医師不足で昨年5月から入院病棟の一部を閉めていたため、看護師には余裕があったのです。

その後、病棟師長から私個人に「小国に行ってみる気はないか」と言われました。小国町は熊本県の北東部、大分県との県境にあり、県の南東部にある多良木町からは直線距離で約100km離れていて、車でも3時間以上かかります。最初は地元を離れることに迷いもありましたが、よその病院はどんな感じなのか興味が湧いて、小国に行くことを決意しました。地元では母と2人暮らしでしたが、母も「頑張りなさい」と背中を押してくれました。

そして、熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会による職員派遣・人事交流制度(3頁参照)の第1号として、平成26年10月から半年間の期限で小国公立病院に派遣されました。

Q. 小国公立病院での日々について

ここでは2階病棟に勤務しています。外科系病棟で、スタッフは医師3人（そのうち1人が熊本大学からの派遣医）、看護師17人、看護助手4人です。整形外科の患者さんが多く、外科手術前後の観察や一般看護業務を担当しています。また、電子カルテ導入の時期でもあり、電子カルテの操作や稼働に向けてたくさんのことを覚えています。



衣食住などの日常生活では、生活に必要なものは全部そろえてもらっていましたし、多良木病院で働く前は名古屋で1人暮らしをしていた経験もあったので、特に苦労したということはありませんでしたが、地元から車で3時間以上かかることがとてもしんどかったです。また、同じ熊本県でも小国は雪が多いことにとてもびっくりしました。

Q. スタッフや患者さんなどの反応は？

スタッフの皆さんはとても親切で、分からないことがあると丁寧に指導してくださり、とても働きやすい環境で仕事ができます。スタッフ同士の雰囲気もよく、和気あいあいとした職場です。また、退院された患者さんから声を掛けてもらい、覚えてもらっていることをとても嬉しく思いました。

Q. 地元の人の反応は？

地元の多良木町では、新聞に載ったこともあって、遠くで頑張っているねと喜んでくれました。私のことを気に掛けてくれる人がたくさんいることをとても嬉しく思いました。

Q. 小国に来て感じていることは？

看護師不足で大変ということ、小国に来て実感しました。来たときに「看護師が1人増えただけで余裕ができた」と言われたので、とても深刻だったことを改めて実感しました。慢性的に足りないうえに、3人が出産・育児休暇中ということで、ギリギリの状態です。今までは勤務されていることを知り、少しでも役に立つことができればと思いました。

また、多良木病院では既に電子カルテが導入されて稼働していたので、小国病院でも導入のイメージが付きやすく、経験を生かすことができよかったですと思います。

Q. 看護師になった動機と休日の過ごし方について

小さいころから「人の役に立つ仕事をしたい」という思いがあり、高校生のときの一日看護体験で、ユニフォームを着て患者さんと話をしたり、実際に看護師の仕事を見学したことで、「このような仕事をしたい」と憧れを持ち、看護学校を受験しました。就職・進学などとても大変でしたが、学生のころに学んだことが今につながっていると思います。

休日は、温泉地が近いので天気がいいと温泉を巡ったり、熊本市内にいる友だちと遊んだりして、リフレッシュしています。連休のときは地元に戻り、ゆっくり過ごしています。

Q. この取り組みに対する思い

最初は「やっていけるだろうか」ととても不安で、勤務することにもとても緊張していましたが、病院や町の皆さんに声を掛けてもらったり、病棟スタッフの皆さんに丁寧に指導していただいて、環境に慣れることができました。半年間という短い期間ですが、自分自身のスキルアップにつながっていると思います。たくさんを学んだので、ここで学んだことを多良木病院に帰ってから生かしていきたいです。

貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。そして、この交流がいつまでも続くことを願っています。

Q. 後に続く人たちにひと言

これからこの制度で派遣で働いてみようという人は、戸惑うこともあるかもしれませんが、自分自身の成長につながると思います。また、環境を変えることで新しい発見やたくさんのお話を学ぶことができると思います。

ぜひ、チャレンジしてほしいです。



熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会による職員派遣・人事交流制度について

熊本県の地域の病院では、医師のみならず看護師やコメディカル等も不足しているのが現状です。この状況を解消するために昨年4月、県内の6自治体病院と、病院を運営する9市町村が「熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会」を設立しました。職員派遣・人事交流制度は、同協議会事務局が看護師やコメディカル等の状況を随時把握しながら、所属する病院同士で医療スタッフ等を相互に派遣・扶助することで、各病院におけるマンパワーを確保し、地域医療の充実を図るもので、昨年10月に創設されました。

小国公立病院の現状について

当院では慢性的な医師不足、看護師不足が続いています。また、今後も看護師の定年退職が続く予定で、数年後には危機的状況に陥ることも予測されています。募集は常に行っていますが、見つからないのが現状です。このたびの職員派遣・人事交流制度により、昨年10月に公立多良木病院さんから赤池さんを派遣していただき、大変助かっています。赤池さんの当院への派遣は今年3月までとなっていますが、引き続きこの制度によって派遣が続くことを強く願っています。

小国公立病院事務局長

熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会事務局 穴井淳二